

組合青年部活動助成事業 実施報告

ー広島県東部機械金属工業協同組合 東青会ー

去る3月7日(木)、キャステム(株) 代表取締役 戸田拓夫氏を講師に招聘し「今後の備後中小企業の進むべき道は」と題し、研修会を実施。自社の存在意義やどのような部分で社会的役割を担うべきなのかを自問することで役割を見直し、結果的に業績改善に繋がる、などのヒントを得ることができ、また、知識及び見聞を広めることができた。



～ 青年部活動助成事業を活用しませんか ～

青年中央会では、組合青年部活動の活性化を目的として、毎年青年部を対象に活動費の一部を助成しています。助成実績として先進地視察や講習会・研修会、お客様を対象にした料理教室、会員親睦など様々な活動に対し助成しています。平成26年度も元気で活発な青年部活動に対し助成を行う予定です。

☆ 平成25年度補正予算 ☆

～ 中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業のご案内 ～

広島県中小企業団体中央会は、ものづくり・商業・サービスの分野で環境等の成長分野へ参入するなど、革新的な取組にチャレンジする中小企業・小規模事業者に対し、地方産業競争力協議会とも連携しつつ、試作品・新サービス開発、設備投資等を支援する表題事業の地域事務局となっております。

(事業概要)

平成25年度補正予算の規模は全国で約1,235億円、1社当たり補助額は100万円～1,500万円、広島県内では200社～300社の採択を予定。

(対象事業)

試作開発や設備投資により、競争力の強化が見込まれる事業計画に基づき実施される事業。

平成25年度補正中小企業・小規模事業者ものづくり・商業・サービス革新事業(1次公募一次締切り)について、平成26年2月17日(月)から3月14日(金)まで公募を行いました。この期間に申請のありました7,396件について、地域採択審査委員会および全国採択審査委員会において厳正な審査を行った結果、2,916件の補助金の採択事業者を決定しました。

(公募期間)

第1次公募…終了(第2次は7月頃を予定しています。)

～ 青年中央会にぜひ、ご加入を！！ ～

青年中央会には、現在様々な業種29組合(個人会員含む)、約400名の若手経営者が参加し、いろいろな活動を通じて参加メンバー間の絆を深めながら、様々な問題の解決、ビジネスチャンスの拡大等に向けて互いに助け合っています。

あなたも今こそ青年中央会に参加して、自分のチャンネルを広げてみませんか？

興味を持たれた方、参加してみようと思われた方は、事務局までご連絡ください。

～ 青年中央会活動報告 ～

開催日	行 事	出席者
12/5	第4回役員会 (中央会会議室)	11名
2/13	県知事を囲んでの集い (尾道国際ホテル)	46名
2/7～9	県外研修 (沖縄)	12名
3/26	正副会長会議 (中央会会議室)	4名

青年中央会または組合青年部活動についてのお問い合わせは青年部中央会事務局まで

TEL 082-228-0926 E-mail chuokai@chuokai-hiroshima.or.jp



県知事を囲んでの集い、尾道市にて開催



丸本副会長

去る2月13日(木)、広島県中小企業団体中央会(会長 伊藤 學人)及び広島県中小企業団体青年中央会(会長 円福寺 雅之)は、尾道国際ホテルにおいて「県知事を囲んでの集い」を開催した。当日は、組合青年部関係者、中央会会員等46名が出席。開会に先立ち、まず、広島県中央会伊藤 學人会長及び青年中央会丸本修二副会長より主催者挨拶が行われ、引き続き「広島政運営の基本方針2014」というテーマにて湯崎知事より講演が行われた。

講演の中で湯崎知事は、「これまで広島県では、2010年に『ひろしま未来チャレンジビジョン』を策定し、4つの政策分野を掲げ、概ね10年後を展望した取組方向を明示した。中でも“新たな経済成長”と“人づくり”を重点分野とし、イノベーション創出へ向けて様々な施策を展開してきた。一般市民の

立場に立てば、安心して暮らせる社会を実現するためには、まずは『雇用がある』と言うことが大事であり、そのためには産業、経済の活性化が必須となる。また、経済、社会を作るのはあくまで人であるので、“人づくり”は重点課題として外せないものである。広島県としては、これまでもイノベーションが生まれやすい地域を目指し、環境関連や医療機器、従来からある自動車や鉄工、造船など産業別の対策を主に進めてきた。今後はこのような産業別の対策ではなく、もっと横割りでのどの分野の産業でもイノベーションが進んでいきやすいような土壌を創っていくべきである。これらを進めていくには、『ダイナミックな事業環境』、『多様な人材集積』、『人材集積を後押しする環境』の3つが必要であり、これにより広島県がイノベーション(新しい企業・事業)が生まれやすい地域としての力を取り戻し、豊かな土壌づくりをすることが可能となる。」と語られた。

その後、組合青年部活動事例発表として、中国コーヒー商工組合青年部・割方隆史氏より、「希望の香り～1年経った今～」と題し、オリジナルブレンド開発後の販売へ向けた取り組み、現状と課題等について発表が行われた。なお、会場では、中国コーヒー商工組合青年部のメンバーが淹れたてのオリジナルブレンドコーヒーを参加者全員に振る舞った。

次に、広島県菓子工業組合青年部会長・竹内恒彦氏より、「全菓連青年部 中四国ブロックブース 全記録～ひろしま菓子博2013を振り返って～」と題し、ひろしま菓子博2013にて出展した“クリームぜんざい”に関する製作及び販売等について発表が行われた。発表後、湯崎知事より、「両組合での取り組みは、まさに1社でできないことを同業者が集まって色々な課題・困難を乗り越え、新しいものを生み出していくといった組合活動の原点であり、組合の意義・可能性を感じるものである。“希望の香り”が広島県で定着すること、“クリームぜんざい”が広島で復活することは、まさにイノベーションであり、それぞれまだ課題もあるかと思うが、組合で知恵を出し合って乗り越えて行って欲しい。」と激励のコメントを頂いた。

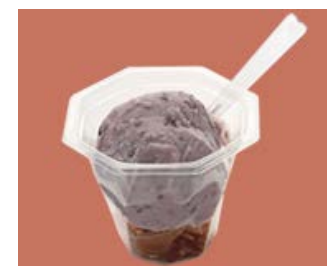
その後、青年中央会田口副会長の乾杯あいさつにより懇親会が行われた。懇親会場では、湯崎知事に各テーブルを廻っていただき、参加者との意見交換や名刺交換を行うなど交流を深めた。和やかな雰囲気の中、最後に青年中央会の大副会長による中締め挨拶があり、閉会となった。



湯崎知事



講演風景



県外研修 in 沖縄



ここ数年、青年中央会視察研修はアジア諸国を中心に実施していたが、本年は国内に目を向け、2/7～9 の3日間、沖縄県を訪問した。この度の視察においては、沖縄県中小企業青年中央会の協力のもと、両団体での交流促進を目的とし、組合青年部関連企業等の視察及び合同懇親会を実施した。

視察では、まず、沖縄県中小企業青年中央会会員の沖縄県酒造組合青年部所属企業であり、地元最大手酒造メーカーの瑞泉酒造（株）を訪問。最初に沖縄県中小企業青年中央会事務局の与那嶺氏より当青年部の活動状況報告がなされた。当青年部では泡盛を真の県民酒とするために様々なプロモーション活動を行っているとのこと。また、青年部独自での商品開発も行っており、開発商品である泡盛「紺碧こんぺき」を当会出席者全員に土産品として頂いた。その後、瑞泉酒造（株）庶務部販売主任の森氏より、当企業にて製造する泡盛の歴史や製造工程等について説明がなされた。説明の中で森氏は、「泡盛のルーツは中国またはタイなど東南アジア地域と言われており、現在、原料はタイ米を用いている。泡盛は3年以上寝かせた「古酒（クース）」ほど高価で美味しいものとなるが、当社では7年以上の熟成を重ねた「古酒」だけを提供している。古酒作りは年代順に並べた酒を順次継ぎ足して補う「仕次ぎ」と呼ぶ方法により行い、古酒には高価になると40年、50年といったものもある。当社の酒造所も1910年より現在地にはあるが、戦時中の空襲で壊滅的な被害を受けたため、現存する酒造所は戦後に再建したものであり、現在、提供できる古酒はせいぜい25年程度のものである。」と語られた。その後、工場設備等の見学し、泡盛の試飲等を行った。



次に、琉球王家最大の別邸・ユネスコ世界遺産でもある識名園を訪問し、当園指定管理者の沖縄県緑化種苗協同組合青年部所属企業・（有）グリーンアルファ専務取締役の國吉氏による案内のもと、庭園を散策しながら当園の管理業務における説明を受けた。國吉氏は説明の中で、「識名園は琉球王家最大の別邸で、国玉一家の保養や中国皇帝の使者の接待などに利用されていたようである。沖縄戦で壊滅的な被害を受けたが、1975年から20年にわたる整備工事で今日の姿に復元され、2000年には世界文化遺産に登録された。園の管理業務は3年前より沖縄市教育委員会からの指定管理制度にて当組合の組合員であることが入札条件（組合員による指名競争入札）として委託されている。年間管理費としては2000万円程度の受注額だが、首里城など他の観光地と違って訪問者もさほど多くないため人件費がかかっていない。基本的な業務は日々の緑地管理と受付業務のみであり、平日は4名体制で管理している。企業としては非常に管理のしやすい庭園であり、今後もできる限り受注を継続していきたい。」と語られた。

その後、18時半より両団体青年部員参加による合同懇親会が開催され、お互いに親睦を深めつつ、良い情報交換をすることができた。沖縄県中小企業青年中央会の平山会長は締めめの挨拶で、「広島県青年中央会さんが毎年このような視察研修を海外や県内で行っていることは大変素晴らしいことであり、我々も是非見習って実現したいと思う。もし、国内で広島に視察研修へ行くことがあれば、その時は是非またこのような雰囲気の中でご協力をお願いしたい。」と語られた。

2日目は、「琉球カントリー」での親睦ゴルフ組と視察・観光組に分かれた。視察・観光組は沖縄県中小企業青年中央会事務局の与那嶺氏案内のもと、嘉数高台公園より普天間基地を傍観し、米軍の最新鋭輸送機である“オスプレイ”を見ることができた。次に、近年開発がめざま

しい北谷地区（アメリカンビレッジ等）の視察の後、嘉手納基地敷地内にあるレストラン「嘉手納マリーナ」にて昼食を取り、親睦ゴルフ組と合流後にホテルへ戻り、2日目は終了となった。

最終日には沖縄市（旧コザ市）を訪問し、「ハローアメリカに象徴されるまち」と題した現地ツアーに参加した。始めに地元の老舗ホテルであるデイゴホテルの宮城社長による講話を聴講し、その中で宮地社長は、「沖縄返還（1972年）までは嘉手納基地がベトナム戦争や朝鮮戦争などの徴兵地として大きな役割を担っていた。当ホテルも米軍専用ホテルとして経営し、街は米軍特需で活況であった。その後、1972年に沖縄が返還され、嘉手納基地も年々縮小傾向となり、我々も米軍に依存したホテル経営から、現在のプロ野球キャンプなどを中心とした“スポーツ合宿型ホテル経営”への転換を図ることとなった。行政や観光協会、ホテル組合や中央会も巻き込みながら全国で営業を行い、今ではプロ野球やサッカー、基地問題は大変難しいと感じている。しかし、沖縄県にとって米軍に依存する経済活動は未来永劫のものとは思えない。実情、沖縄県の年間観光収入は約4,000億円、米軍基地関連収入は約2,000億円と言われおり、予想以上に観光収入の割合が高くなってきたと感じており、個人的には観光へ注力していくことが今後の沖縄の方向性のように思える。」と語られた。その後、現地ボランティアガイド同行のもとで市内視察を行い、戦後文化資料展示室を見学の後、最後に嘉手納基地を外部から傍観しながら基地の概要等について詳しく説明を受けた。

この度の視察研修では、現地の組合青年部メンバーとの交流を図ることができ、また、沖縄独特の文化に触れながら、現地住民と米軍基地との関連性についても詳しく知ることができ、大変有意義なものとなった。

組合青年部全国講習会in三重

平成25年11月8日（金）、三重県四日市市の「じばさん三重」及び「四日市都ホテル」において、平成25年度組合青年部全国講習会（主催：全国中央会）が開催され、全国からおよそ240名の中小企業組合青年部に所属する若手経営者・後継者及び青年中央会事務局担当者が参加した。12時00分からの全国代表者会議では、組合青年部に所属する若手経営者・後継者のうち都道府県青年中央会（協議会等）の代表者が課題を抱えつつも活動を実施している中で、より効果的且つ活発に事業に取り組んでいる事例を各ブロックから代表県が1事例ずつプレゼンテーションを行った。（中国ブロック代表は岡山県中小企業団体青年中央会）

プレゼンテーション終了後、出席者による投票の結果、最優秀賞に中国ブロック・岡山県中小企業団体青年中央会、優秀賞に四国ブロック・徳島県中小企業青年中央会、九州ブロック・宮崎県中小企業団体中央会青年部が選ばれ、懇親会の席上で表彰が行われた。

14時20分からは、地元・三重県の企業である井村屋株式会社代表取締役会長・浅田剛夫氏より、「特色経営のあゆみ～人のやらないことをやる～」というテーマで、自社のこれまでの歩みと創業者から学んだ教訓を基に、特色的な経営を行ってきた自身の体験について講演があった。

井村屋は常に他社のまねをせず、「自社の特色は何か？」ということを考え続けており、“和にこだわる商品特性”を最大限に活かした特色経営を行っているとのこと。商品の具体例としては、「あずきバー」や最近ヒットしている「やわもちアイス」など小豆を使用した商品が多数ある。また、最近では備蓄・保存用の羊羹である「えいようかん」を新たに開発し、新たな市場開拓も行っている。世界的に和の文化が注目される中でこのような“和風商品”は世界のマーケットでも認められる可能性を秘めており、今後はグローバルな市場開拓も視野に入れているとのことであった。

続いて、中小企業診断士の橋本大輔氏を講師に迎え、「青年部に入って良かったなと思うことはなんですか？」というテーマで、ワールドカフェ方式による全員参加型のディスカッションを行った。（1ラウンド20分×3ラウンド）

今年、伊勢神宮が20年に一度の式年遷宮の年にあたることから、講習会終了後に行われた懇親会の冒頭に、伊勢市大湊の木遣り隊による「伊勢神宮御遷宮お木曳の木遣り歌」が披露された。

その後、三重県中小企業青年中央会会長伊藤竜己氏の主催県挨拶に続き、三重県副知事石垣英一氏、四日市市商工農水部長永田雅裕氏よりそれぞれご来賓挨拶を頂戴し、三重県中小企業団体中央会会長佐久間裕之氏の発声により乾杯が行われた。地元産の南紀みかんの重さを測るゲーム大会が開催されるなど、大いに盛り上がり、参加者は全国各地の仲間とそれぞれ交流を深めた。なお、平成26年度組合青年部全国講習会は、福井県において開催される予定。

